

# 令和5年度 教育懇談会 報告

日時・場所：R5.9.30（土）10：00～12：00 伯耆しあわせの郷

**グループ討議①**テーマ：これからの時代に生きる子どもたちに求められる力とは

会場：大会議室 参加者：10名

講師：鳥取県教育委員会事務局小中学校課 課長補佐 宇山慎二氏

指導主事 吉田達也氏・三村直樹氏

社会教育課 社会教育主事 足羽智史氏

冒頭あいさつ→chatGPTで書けてしまう。

子どもに chatGPT を体験させるのには意味がある。書き方を提示してくれるが、分からないときに「ウソ」をつくことがあるので、正しい情報かどうかを判断する必要がある。

1 私たちの子どもたちは、将来どんな世界を生きていくのか 宇山先生

・ Society5.0 → [https://www.cao.go.jp/lib\\_006/society5\\_0/society5\\_0\\_mirai2.html](https://www.cao.go.jp/lib_006/society5_0/society5_0_mirai2.html)

・ 成長社会から成熟社会へ。人間の価値観は、標準の幸せから固有の幸せへと転換。

・ AIが人工知能を超え、今ある仕事の約半分がなくなる

新しい価値を自分で見出して作り出していく力が必要。主体的・対話的で深い学び。

今ある実社会の中で何ができるか→GIGAスクール構想

・ 覚えるだけの知識ではなく、思考力・判断力・表現力（鳥取県の子どもはここが弱い）

学んだことを人生や社会に生かすには、みんな同じではなく、個別最適

2 全国学力学習調査（実際の小6の問題を参加者も体験） 三村先生

・ 対象：小6・中3

・ 教科：国、算・数、英（3年に一度）、理（3年に一度）

R4年鳥取県は全国平均より平均点がやや低い。R5は少し上がってきている。

以前は平均点が高かった→知識・技能の問題は得意

現在→思考力・判断力・表現力が必要な問題が苦手＝活用が苦手

現在は多くの情報の中から自分に必要な情報を抜き出す力が必要。

3 一人一台端末を実際に使って体験 吉田先生

・ 導入当初は、どうしたら使えるか、どう操作したらいいか、使うことが目的だったが、使えるようになると、資質・能力をつけるための手段の一つとして使用。

・ 「クラスルーム」「掲示板」「ジャムボード」「ドキュメント」

→共同で、ほかの人の入力を見ながら作業・編集できる。いつでもどこでも学べる。

・ 操作のスキル、情報を集める、まとめる、分析するなど、効果的なツールとして、選択肢の一つとして使いこなしている。

4 情報モラル 足羽先生

・ GIGA体験→Googleアンケートに回答

・ 子どものインターネット利用実態→年々増加。弊害の心配。

適切利用ができる「環境」や「習慣」を子どもと一緒に作っていくことが必要。

・ インターネットの利用のルールの作り方→①具体的な数字を入れる②使ってはいけない「時間・場所」③ルールを守るための工夫④ルールを守れなかった時

・ 県の取組→民間の専門家を派遣。地域との連携。「とりのからあげ」

グループ討議②テーマ：部活動について

会 場：多目的活動室 参加者：10名

講 師：鳥取県教育委員会事務局体育保健課 指導主事 戸井有希氏

## 1 説明

- (1) 中学校等における部活動の意義と現在の部活動を取り巻く環境  
子どもたちの意向にあった、地域に見合ったものでなければならない  
持続可能なものでなければならない  
少子化の影響は避けられない→単独校での出場は困難  
教員は生徒数で配置される。部活専門の教員を配置するわけではない。
- (2) 国の動向  
当初は移行期間を R5-R7 の期限付きとしていたが、完了期限を解除した。
- (3) 県の動向  
在り方検討会を実施 (R3：3回、R4：2回)  
公立中学校を対象とした移行を検討 (R4：2回目から)  
市町村への説明
- (4) R3、R4モデル事業について (境港市・鳥取市)  
境港市・・・陸上、ハンドボールを休日スポーツクラブとして立ち上げ (R3.9～部活開始)  
地の利を活かした活動ができる。指導者は退職教員、現役教員、体育関係者  
9割の子ども、保護者から高い評価を得た。  
複数の指導者が関わることで教員にゆとりが生まれた。  
(課題) 指導者確保、国補がなくなってからの経費の問題  
鳥取市・・・市教委と鹿の助スポーツクラブとの連携  
鹿野学園を拠点校としたバレーボール、軟式野球部を選定  
R4は陸上部、バレーボール部に外部指導者を紹介  
(課題) 部活動指導員不足、経費の問題
- (5) 「鳥取県公立中学校等における部活動の地域連携・地域移行に向けた推進計画」について  
型にとらわれず「拠点校型」「地域連携型」といった新しい部活動の形態を確保。  
「拠点校型」→市町をまたぐには課題もある。

## 2 意見交換・情報交換

- 各地域や学校の現状について
- 地域移行の在り方や課題について
  - ・中学校の部活動だけの問題としてだけでとらえていいのか
  - ・今年度から原則部活動が全加入ではなくなった。
  - ・学校が軸になっての地域連携が望ましい
  - ・クラブチームが運営しているものもある。
  - ・合同チーム (卓球・剣道) 外部コーチ
  - ・大会がベースになっていて本来の部活の意義が損なわれている。
  - ・クラブチームに流れている子と部活に残る子とがいる。
  - ・外部コーチ、教員の良さはそれぞれある。
  - ・他学年との関わりがなくなる。

グループ討議③テーマ：不登校の子どもの理解と支援のあり方

会場：小研修室 参加者：12名

講師：鳥取県教育委員会事務局いじめ・不登校総合対策センター係長 森田雅彦 氏  
指導主事 山口 功 氏

## 1 鳥取県の不登校の現状

◎こまり感を抱えるすべての子に対応

小学校・中学校共に年々増加傾向 R4年度増加が著しい 全国では24万人

◎4人のグループで①要因と②理由を話し合う

①不登校の要因は

家庭環境・家庭教育力不足・いじめ・学業不振・現実逃避・生活習慣の乱れ  
集団が苦手・発達障害・心の病気・家庭内不和・ICT依存・コロナ禍の影響  
学校が楽しくない・自分でも理由がわからない

②増加している理由

保護者の意識の変化、保護者の意向を尊重、教育の価値観の多様化  
親の生活リズムの乱れ  
フリースクール等の受け皿の増加、リモート対応  
中3受験

## 2 いじめ・不登校総合対策センターでの取り組み

◎状況の聞き取り どこからから解消していくか

コロナかの影響は大きい 登校自粛 → 不登校に  
経済格差が大きくなってきている

◎アンケート調査 要因：無気力・不安が多い

きっかけ：先生の事・体の不調・生活リズムの乱れ・友だちのこと

◎取り組みの方針 ・魅力ある学校づくり ・児童生徒理解を深める

・社会的に自立を目指す ・誰でも起こりうる。問題行動ではない

◎学校の役割 ・自己存在感を高める ・共感的な人間関係を持つ ・自己決定の場

◎家庭への支援 ・いつでも相談できる いつでも見守っている 風通しの良い社会

## 3 グループワーク

朝、おなかが痛いと訴える子どもへの対応（今週で3回目）

・休ませる ・どうしたのか聞く ・原因を探る

認められたい気持ち 愛されたい気持ち マズローの要求階層説…安心基地の基盤が大切

◎心に寄り添う基本アプローチ 安心基地づくり・傾聴・受容・共感  
言葉の力を信じて伝える